

会 議 録

会議の名称	令和6年第2回 次期総合計画等策定委員会
開催日時	令和6年8月26日（月） 午前9時00分から午前9時45分まで
開催場所	和泉市役所 庁議室
出席者	【出席者】 森吉副市長、吉田副市長、大槻教育長、並木参与、山本危機管理部長、 前田市長公室長、土本総務部長、山崎環境産業部長、西川福祉部長、 立花市民生活部長、藤原子育て健康部長、林田都市デザイン部長、 東教育・こども部長、辻教育事業生涯学習部長、近藤上下水道部長、岡田消防長、 藤原行政委員会総合事務局長、藤原議会事務局次長（議会事務局長代理） 【事務局】 （政策企画室） 門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中総括主査、江口主査、 田嶋政策・資産マネジメント担当課長、加藤総括主幹 （人事課） 奥課長 （財政課） 古川次長、左海課長、山岡課長補佐 （有限責任監査法人トーマツ） 玉井氏、黒山氏
会議の議題	1. 市民アンケートの実施について 2. 基礎調査について 3. 学識ヒアリングについて 4. 職員ワーキングの実施について 5. 今後のスケジュールについて
会議の要旨	第6次総合計画等の策定にあたり、市民アンケート調査、基礎調査、学識ヒアリング、職員ワーキングの実施概要等の説明を行い、今後の計画策定スケジュールの共有を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録

事務局	【次第１ 市民アンケートの実施について】 （事務局【政策企画室】から、資料１について説明） 次のような質疑等があった。
吉田副市長	○予定していた一部アンケートを既存アンケートで代替することは問題ない。規模の大小はあれど、各部局において様々なアンケートを実施しており、それらを有効活用して見て現状分析することが望ましい。政策企画室が各部局のアンケート調査の全容を把握できていないのであれば、各部局側からも、調査結果について情報提供を行い、すべての調査に目配りして現状分析できるようにすべきである。
事務局	【次第２ 基礎調査について】 （事務局【政策企画室】から、資料２について説明） 次のように質疑等があった。
森吉副市長	○基礎調査資料の項目については、各課からの意見も聴取の上、よりよく分析できる基礎調査資料となるよう進めてもらえばと思う。
事務局	【次第３ 学識ヒアリングについて】 （事務局【政策企画室】から、資料３について説明） 次のように質疑等があった。
吉田副市長	○学識ヒアリングの実施にあたっては、総合計画、創発プラン全体をどのような方針で作っていくかという説明が必要で、人材育成など、市として注力していきたい課題を示したうえで意見をいただけるようにしていく必要がある。そのためには、市としての策定方針をもっておく必要があるが、この点どのように考えているか。
事務局	○第６次総合計画等の策定方針については、令和５年１２月の第１回策定委員会においてお示しさせていただき、同策定方針に従い仕様書作成及び策定作業を進めているところ。策定方針については学識ヒアリングの際にも示していく必要があると考えている。 創発プラン全体の大きな方針としては、学識経験者や市民の意見だけでなく、部局を跨いだ特別職の意見も把握したいと考えており、特別職ヒアリングを実施予定である。
吉田副市長	○総合計画と創発プランの計画期間をそろえることで両者の計画の内容がリンクしていくものとするが、どの部分がリンクするのか、どの部分が総合計画で、どの部分が

	創発プランなのかが混同しないように気を付けてもらいたい。
事務局	○総合計画、創発プランの関係性については、より具体化したほうが分かりやすいと考えており、関係性を整理しているところである。次回策定委員会では、総合計画と創発プランの関係性を整理した資料を共有したい。
	【次第4 職員ワーキングの実施について】
事務局	(事務局【政策企画室】から、資料4について説明)
	次のように質疑等があった。
土本部長	○職員ワーキングの全2回の実施内容を見ると、職員ワーキングによって計画策定への機運が高まった状態で職員参画のプロセスが終了してしまうというのがもったいないと考えている。例えば、令和7年度に総合計画等のPR動画を作成する機会があるが、職員ワーキングによってモチベーションの高まりがみられる職員を活用してはどうか。
事務局	○職員ワーキング後の職員参画の視点は事務局では持っていなかったため、PR動画の作成の際に広く若手職員の意見を募るなどして、市民にとって分かりやすい動画内容にしたい。
森吉副市長	○前回計画策定時の職員ワーキングでは11回という実施回数が職員の負担となっていたが、2回程度の職員ワーキングで意見を抽出しつつ職員負担を減らすという考えはよいと感じる。また、次世代を担う35歳以下の職員を対象としたのもよいと感じている。 土本部長の意見のとおり、職員ワーキングに参加した職員の中から、今後も総合計画に携わりたいという意見も出てくると思われるため、事務局の方で全体のスケジュールの中でうまく調整して、より良い計画にしてもらえればと考えている。
大槻教育長	○職員ワーキングの中で、せっかく様々な意見が出てきて面白くなっていく中で、2回で終了するのはもったいない。必要に応じて第3回を開催してもいいのではないかな。
森吉副市長	○今回の職員ワーキングの目的が将来都市像の設定にあるため、策定委員会や議会報告のスケジュールを加味すると難しいのではないかな。将来都市像の設定を終えたのちに追加の意見を聴取する職員ワーキングを行うことは検討できると思われる。
	【次第5 今後のスケジュールについて】
事務局	(事務局【政策企画室】から、資料5について説明)
	次のように質疑等があった。
東部長	○令和7年3月の議会で報告を行う内容は、どのような内容を想定しているのか。

事務局	○事務局としては、令和7年3月の議会報告の時点でどこまでの内容を報告するかは検討が必要であるが、総合計画審議会の素案として提示できるような、章立てや構成も含めたほとんど成案に近いものを考えている。
東部長	○総合計画審議会のスケジュールについて、10月からスケジュール上問題がないのか確認したい。骨子案を作る段階で1回目の総合計画審議会を開催するというのも一案だと思うが、スケジュールの考え方を伺いたい。
事務局	○令和7年6月の市長選後の市長公約を盛り込んだ場合、計画素案が出来上がるのが9月になることを考えると、総合計画審議会のスタートが10月になるのは仕方ないと考えている。
東部長	○案の審議に先立つ、市の概要などは先行して説明できると思われるため、その点だけでも早めに審議会を開催しておくというのも方法のひとつとして検討されたい。
森吉副市長	○他に意見等なければ、本日の委員会については以上とする。
	以 上